平成 22 年 英文表記 科目名 発酵学 Microbial Technology 3月11日 教 員 名:玉城康智 作成 技術支援:渡邊謙太 学年 履修•学修 授業期間 対象学科 必・選 単位数 授業方法 生物資源工学科 本科 3 必修 履修 講義•実習 通年 2 ・微生物操作を実際に行い、身近な発酵食品の製造技術を習得する。 ・発酵食品に使用される微生物の特徴と発酵メカニズムを理解する。 目標 ・PBLを活用した情報収集、まとめ、プレゼンテーション能力を向上させる。 2 3 JABEE プログラム名称 高専目標 0 JABEE プログラム教育目標 0 微生物は食品、醗酵醸造、医薬品、化学工業品などに古くから利用され、現在では環 授業概要、 境浄化でも注目を集めている。そこで、各分野で利用されている微生物の特徴と機能 方 針、 を理解し、発酵技術の可能性を理解する。また、実際に発酵食品を製造し、発酵食品 履修上の注意 に対する知識を深める。 評 価 方 法 定期試験の得点を 70%、レポート 30%で評価する。 教科書・教材 応用微生物の基礎知識 (オーム社) 基礎微生物学1微生物学入門-微生物と生活科学-(培風館) 参考図書 (他にも参考図書を探す場合のキーワード:発酵・応用微生物) 業 計 時 業 内 容 授 業 項 目 授 間 1. 授業ガイダンス 発酵学で学ぶこと、授業の進め方、成績 評価方法 2. 第2章 微生物の種類 2 発酵で様々な微生物を使用する目的 3. 微生物操作の基本 2 微生物の取扱いに関する基礎知識。滅菌方法、器具の名称など 4. きのこ栽培 4 きのこ栽培を通して、かびの取扱い方法を学ぶ 5. 酵母の分離 自然界から酵母を分離 (培地作りから分離、保存まで) 6 6. 前期中間試験 2

学修単位における自学自習時間 の使い方		
学習単位時間合計	60	実時間合計 50
18. 泡盛醸造	4	泡盛を醸造する
15. 泡盛について	2	沖縄の発酵産業である泡盛について学ぶ
14. 納豆を作る	6	市販の納豆から納豆菌を分離し、その納豆菌で納豆を作る
13. 後期中間試験	2	
12. 酢酸発酵	4	酢を作る
11. 味噌作り	4	味噌作りを学ぶ
10. PBL 授業	2	発酵食品について、微生物の特徴と働きについて学習と発表
 11. 第5章 応用微生物の利用	6	発酵における微生物の役割を学習する
10. 另 4 早		似工物の工目界境、木長原に ブバー(子目
3. 似土が函数の例と 10. 第3·4章 一般生理と代謝	$\frac{2}{2}$	微生物の生育環境、栄養源について学習
- 0. クノム集色 9. 微生物菌数の測定	$\frac{2}{2}$	グラム集色を行う 微生物の菌数測定を行う
8. グラム染色	2	グラム染色を行う
- 7. 乳酸菌の分離	6	ヨーグルトから乳酸菌を分離しその乳酸菌でヨーグルトを作る